



# 2016 環境活動報告書



# 目 次

● ごあいさつ .....	2
● 環境理念と行動規範 .....	3
● 環境方針 .....	4
● 環境マネジメントシステム .....	5
● 環境マネジメントの取り組み .....	6
● 環境法規の遵守状況 .....	7
● 環境基金委員会報告 .....	8
● リサイクル報告(2016年度回収量の報告) .....	9
● 組合員の環境活動トピックス .....	10~11
○ コープおおいた全体で取り組んだ環境活動 .....	10
○ 親子体験スクール in 清川体験農場／水生生物観察会 .....	11
● 地球温暖化防止の取り組みと結果 .....	12
● 店舗事業の電気使用量の取り組み .....	13
● 店舗事業の電力使用量削減結果 .....	14
● 店舗事業の電気使用量削減結果 .....	15
● 燃料使用量削減の取り組みと結果報告 .....	16
● 太陽光発電レポート .....	17

## ごあいさつ

環境活動についての取り組み事例とその成果について、今年もコープおおいたの全てのステークホルダー（利害関係者）のみなさまへご報告する時期となりました。「この1年間は昨年度とどう変化を作れたのか」「前進できる実践事例は生まれたのか」わたしたち自身がその経過を振り返る大切な機会と捉えています。組織内の環境マネジメントシステムに沿って、いかに機能的に果たすべき社会的責任に向き合ってきたのかをその成果と一緒に確認いただければと考えています。大きな前進を作れたと自負しているわけではありませんが、少なくとも停滞せず、やるべき取り組みを目標に向けて確認しながら進んできた1年間ではなかったかと思っています。



専務理事 江藤 隆康

さて、先日開催されたタオルミナ（シチリア島）主要7カ国首脳会議では、この間確認されてきた「COP21パリ協定」への共同歩調が乱れ始めました。もちろん、個別の批評をするつもりは毛頭ありません。ただ、大局として先進国が歩調でなくては、途上国との温度差が埋まらないどころか、大きな社会問題となっている全世界的な気候変動への対処が不可能になる危険性を帯びています。身近な食生活においても、「サンマやスルメイカが取れない」とか、「ブリがオホーツク海で上がる」とか、特異な現象から異常な海水温変化を痛感している中で、少し危険を感じるのも確かです。

もちろんポスト京都議定書の日本の目標も、COP21の日本の目標も実現性とは大きな乖離があるため100%達成には高いハードルがあり、挫折の誘惑が常に隣り合わせにあります。日本生協連でも、2005年度比での総量削減の進捗管理を行なってきていますが原発事故以降、事情はなかなかそうもいかないのが現実ですし、さらに議論が必要な時期であると思われる。但しそういう日本生協連の動きにも近年、同期を図れていない状況は早い時期に修正したいと思っています。今年度もコープおおいたでは各事業所ですすめるCO<sub>2</sub>排出量削減の自主行動計画に基づく個々の取り組みの継続と日本生協連との連携再開を行なっていく予定です。

「環境基金積立金」の活用も2年目となりました。保育園・幼稚園への絵本の寄贈や地域社会で環境活動に取り組む個人・団体への助成等で役立ちたいという芽は継続でき、かつ少し注目され始めているようです。助成対象団体の活動もより社会的な役割の高いものが増えてきています。あらためて、コープおおいたの「環境基金」がお役立ちに貢献でき、有効な効果に繋がっていくことに喜びを感じているところです。年々、そのお役立ち度合いが高まっていくことを期待しながら、活動を継続していきます。

おわりになりますが、組合員数が15.7万人を超えました。県民の3世帯に1人は組合員です。すなわち組合員の声や期待は地域の声や期待であることにほかなりません。県内最大の消費者組織としての社会的責任を果たしながら、積極的な環境活動による社会貢献を今年度も推進していきます。

この環境活動報告書は組合員や役職員、お取引先のみならず、多くの関係先のみならずみなさまにコープおおいたの取り組みをお知らせするという組織的責任を果たすべく作成しております。ご一読いただき、叱咤激励も含めて忌憚のないご意見をいただければ幸いです。今後とも引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



# 環境理念と行動規範

生活協同組合コープおおいたは、事業者として求められる社会的責任を果たし、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを基本理念として掲げ、下記に上げる行動規範(考えたり、行動したりする時の基準)に沿って行動します。

## ◇責任性の視点

国や行政監督省庁の指針や指導・指摘事項に沿った責任を果たす姿勢

## ◇規律性の視点

関連法令、条例を遵守する姿勢

## ◇積極性の視点

地域社会の中で先頭に立って積極的に取り組む姿勢

## ◇先進性の視点

地域社会の中で未だ事例のない先進的な取り組みに果敢に取り組む姿勢

## ◇公開性の視点

行動計画、実際に取り組んだ行動や結果を内外に積極的に広報する姿勢  
責任性、規律性の視点は一事業者として求められる社会的責任を果たしていくコンプライアンス(法令遵守)の考え方です。厳しい事業環境下にあっても、社会的責任は果たしていく決意を表しています。

積極性、先進性の視点は、生活協同組合として地域社会におけるアクションリーダーの役割を果たしていくことを表しています。地域社会における消費者組織として要求事項を超える取り組みを行ない「生協に入ってよかった」、「生協のある町に住んでいてよかった」と評価していただける組織として在り続けたいとの願いを込めています。

公開性の視点は、時々の経営状況報告はもちろん、「環境保全活動に関わる要求事項に関する情報発信」、「それに伴う活動計画」、「活動した内容と評価について」、関わる全ての人が、同じ目線で同じ理解ができている状態を作ることが必要だと考えます。内外広報の実施に関する誓約の意思と、生活協同組合コープおおいたの全てのステークホルダー(利害関係者)のみなさまへ、定期的に活動の報告をさせていただく決意を表明しています。

# 環境方針

地域の中で、事業活動を行なう組織として求められる社会的責任を果たしていく上で、生活協同組合コープおおいたは、環境理念、行動規範に沿って以下に掲げる環境活動方針に沿って行動しています。

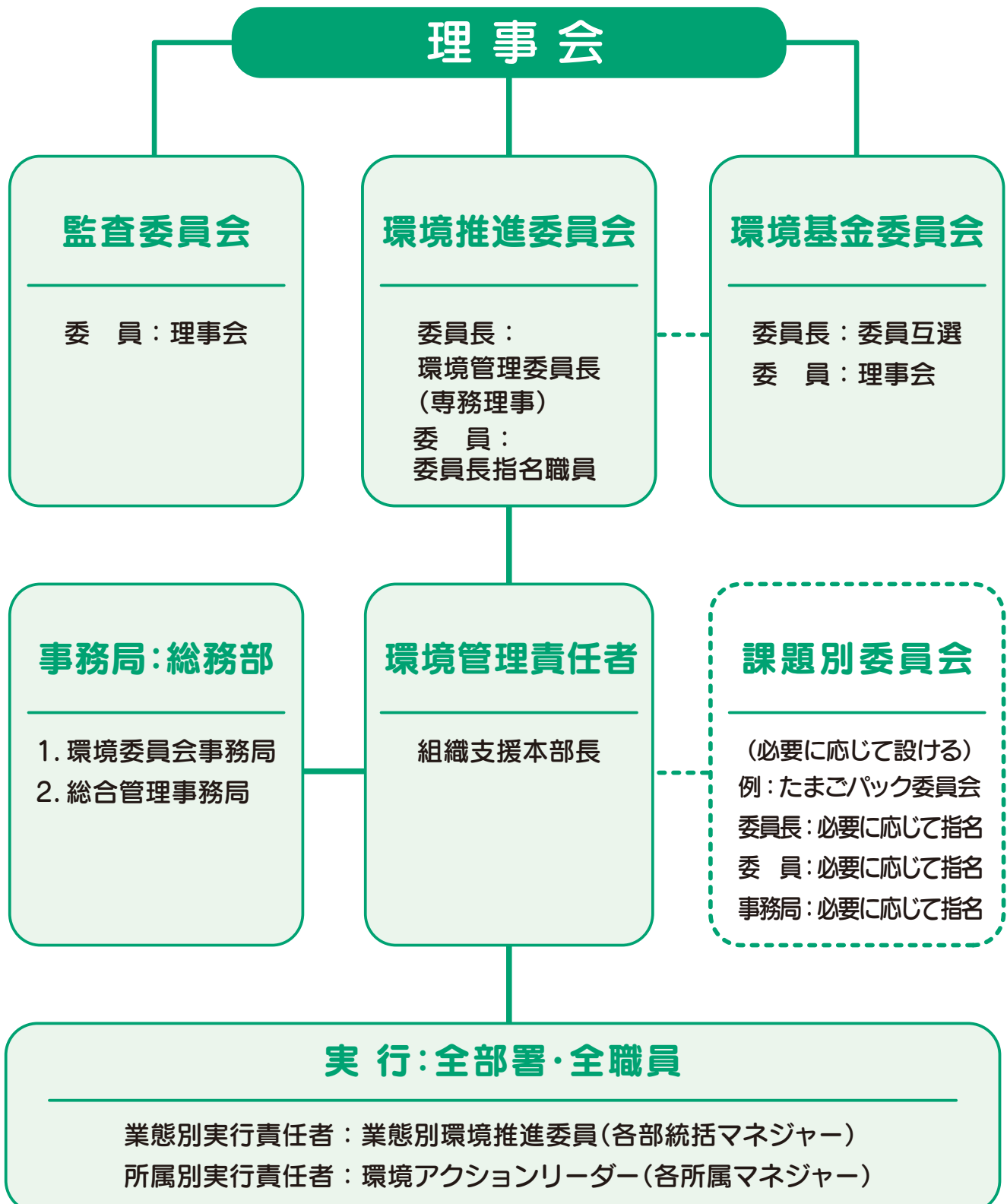
## ～生活協同組合コープおおいた 事業活動分野環境方針～

1. 生活協同組合コープおおいたは、環境問題を生協運動の根源的課題として位置づけ、その行なう事業活動、取り扱う商品、行なうサービスにより発生する環境影響の大きな項目について、環境に関わる法令、条例、受け入れを決めたその他の要求事項を遵守し、技術的、経済的に可能な範囲で、環境の保全活動を自ら設定し、率先して取り組みを実行します。
2. 設定した環境保全活動目標は、環境マネジメントシステムに従って確実に実行していき、定期的に検証と見直しを行ない、最善を尽くします。
3. 以下の事項を、環境保全活動の柱に置き、活動をしていきます。
  - ① 組合員および事業連合や取引先の方と協同して、産直商品やコープ商品を中心に、より環境負荷の少ない商品、安心・安全な商品づくりを進めながら、環境に配慮した商品のうち、年度毎に重点商品を設定し、普及します。
  - ② 各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車両燃料など）使用効率を高めて、供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制します。
  - ③ 容器包装及び梱包材の削減と再資源化を推進します。
  - ④ 紙の使用量を削減します。
  - ⑤ エコドライブ（急発進、急加減速、急なハンドル操作をしないなど）を実践し、業務車両の燃費向上とともに廃棄ガスに含まれる有害物質の排出を抑制します。
  - ⑥ 店舗の商品ロスなどの廃棄物削減と再資源化を推進します。
  - ⑦ 環境配慮型の施設作りを推進します。

以上の活動を進めるために、学習の場や会議などを通じて、すべての職員に対する教育・啓発を積極的に行ないます。この環境方針はコープおおいた内外に公表します。

# 環境マネジメントシステム

事業活動分野の環境活動計画の立案と実行、検証について以下の組織体制に基づき、環境管理委員長である専務理事直轄の環境推進委員会を中心に進めています。諸活動の検証は、内部環境監査委員会で、年に一度、活動の評価と改善指摘をいただいています。



# 環境マネジメントの取り組み

## 環境推進委員会報告

環境推進委員会を四半期に各1回定期開催し、環境マネジメントの様々な取り組みを推進しました。事業活動分野の取り組みについては、引き続き店舗・センターの各事業所における電力や燃料等の使用量について、目標設定～施策検討～実行～振り返りなどPDCAサイクルアップによる活動や、事業分野以外では3年目になる「産業道路（通称：40m道路）清掃活動」等に取り組みました。



## 環境監査委員会報告

### 1. 16年度：環境監査方針

- ①電灯の引き紐等、エコ事業所の推進状況の確認
- ②電力使用量・使用料金の増加事業所の要因と対策提起
- ③省エネチューニング実施の把握

### 2. 監査事業所

#### (1)通常監査事業所

- 《日出センター》 実施日：2016.6/16(木)
- 《日田センター》 実施日：2016.11/15(火)
- 《三重センター》 実施日：2016.9/1(木)
- 《宇佐センター》 実施日：2017.3/22(水)
- 《コープつくみ》 実施日：2016.10/12(木)

#### (2)(株)ファイナルゲート 2015年度：年間報告書の確認 実施日：2016.4/14(木)

#### 【所見】

省エネ事業所推進の基本となる5S<sup>\*</sup>が行き届いています。総体的に整理・整頓がなされており、事業所排出ゴミの削減にもつながる裏紙使用が徹底されています。ただ、エコ推進事業所としての取り組みに事業所間格差が生じています。従って、エコ事業所推進ステッカーを目立つようにする再確認が必要です。合わせて、保温のためトイレの蓋を閉め、また便座保温温度は低めにして使用は冬場のみとし、昨年所見でも提起した大型冷凍冷蔵庫の外気遮断カーテンは要検討です。また、従業員の省エネ意識がまだまだ低いようです。省エネ意識としては、まず電灯の引き紐の活用指導が重要です。あわせて日中はブラインドを閉め、蛍光灯を使用している場面が多々散見されますので、自然光を取り入れるなどの工夫が必要です。特に、エアコンの室温設定（冷房＝27℃、暖房＝20℃）が守られていません。全室に啓発ステッカーとできれば室温計を設置してください。

尚、本部も含めて全事業所でリサイクル活動が推進されていますが、鳥栖エコセンターの稼働により、現在のリサイクル活動に支障を生じないように注視してください。本部以外のシュレッダー上質紙と、本部と店舗以外でのペットボトルキャップの回収・リサイクルは、さらなるリサイクル活動推進において要検討です。

(以上)

※5Sとは…職場管理の基盤づくりの活動で「整理」「整頓」「清掃」「しつけ」の頭文字の5つの「S」をとったもの。



# 環境法規の遵守状況

法規制は、環境マネジメントにおいて最も基本的な要素であり、その遵守に努めています。関連する主な環境関連法規及び規定は次の通りです。尚、2016年度において遵守事項についての対応は、問題なく実施することができました。

法律・条例名	遵守事項	実施内容
消防法	防火管理者の設置。	防火管理者の選任及び変更届を提出しました。 設置部署の定期点検を実施しました。
水質汚濁防止法	店舗の惣菜フライヤーの使用 済み油の措置。	油の流出事故時の措置として管理手順を 関係者に教育実施しました。
浄化槽法	浄化槽の定期水質検査、保守 点検、清掃の実施。	保守点検の定期実施と年1回の法定検 査を実施しました。
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	廃棄物の排出を抑制し、廃棄 物を適正に分別・保管・収集・ 運搬・再生・処分する。	産業廃棄物処理委託業者の許可証有効 期限を点検・確認しました。 マニフェスト(産業廃棄物管理票)発行を 確認し、行政への定期報告書を6月までに 提出しました。
食品リサイクル法	食品廃棄物の発生抑制を優 先し、「発生抑制」「再生利用」 「熱回収」「減量」を促進。 45%の再生利用を実施。	8店舗で排出の生ゴミの堆肥化を実施 し、リサイクル堆肥を使用した野菜の生 産と店舗での販売を行ないました。 行政への定期報告書を6月までに提出し ました。
容器包装 リサイクル法	容器包装廃棄物の排出の抑制、 分別収集および再商品化を 促進。	(財)日本容器包装リサイクル協会と再 商品化委託契約を結び再商品化義務を 履行しています。 行政への定期報告書を6月までに提出 しました。
エネルギーの使用の 合理化に関する法律 (省エネルギー法)	〈工場等〉特定事業者認定に よる定期報告書の提出。	経済産業局等へ定期報告書・中長期計 画書を7月までに提出しました。
	〈輸 送〉特定輸送事業者認定 による定期報告書の提出。	九州陸運局への定期報告書を6月までに 提出しました。



# 環境基金委員会報告(各種リサイクルの収益と使途に関する報告)

カタログや集品袋のリサイクル収益やレジ袋削減の益金を「環境基金」としてコープおおいたでは毎年積み立てています。2016年度も、環境基金委員会で基金の使途について協議し、環境に関することへ有効に活用していくことを決め、①地域で環境活動を熱心に行なっている団体やグループへの助成(コープおおいた環境基金助成金)②県内の幼稚園、保育園へ環境に関する絵本の寄贈③大分県への寄付(大分県環境基金寄付金)④里山保全活動をしている大学への助成(里山保全等環境保護活動研究助成金)を行ないました。



大分県へ レジ袋益金贈呈



大分県私立幼稚園連合会へ絵本の贈呈



大分県保育連合会へ絵本の目録贈呈



姫島村立幼稚園に絵本の贈呈



里山自然観察会の様子



日本文理大学へ助成金贈呈

## 2016年度 コープおおいた環境基金決算報告

収入の部	
前期繰越金	9,012,573
古紙等リサイクル収益(現通帳分)	1,049,815
宇佐歩みの会	17,725
2015年レジ袋益金	1,423,153
コープおおいた環境基金助成金戻し入れ	16,704
収入の部合計	11,519,970

支出の部	
障がい者施設リサイクル作業料	392,374
大分県地域環境保全基金寄付金	115,000
絵本「ジローとぼく」他贈呈関連費用	449,134
広報費(まつりチラシ)	84,240
講師料・日当	108,000
交通費	12,132
会議費	5,340
委託料(残高証明手数料等)	648
支出の部合計	1,166,868

※第2回コープおおいた環境基金助成金は、団体からの申し出により、17年4月に振り込み

※自然環境保護活動研究助成金は、大学寄付申請により、17年4月に振り込み

# リサイクル報告(2016年度回収量の報告)

## コープおおいた 環境活動

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2016年度も多くの組合員の皆さまにコープおおいたの様々な環境活動にご協力いただきました。



**2016年度  
回収量の報告**

**牛乳パックとカタログの回収量**

**約85万5,200kg**  
(前年比 87.40%)

回収量の7割がトイレトーパーやティッシュの実質の原料となります。  
コアノンロール130m(S)1個276gで換算。  
約216万8,985ロールが再生されました。

**タマゴパックの回収量 (共同購入・個配対象)**

**約4,900kg**  
(約24万5,000枚)(前年比 211.38%)

1パック約20gとして換算。  
タマゴパックとして再生されました。  
中にはリサイクル対象外の素材も含まれていましたが、それらはベレット化され繊維材料となりました。

**プラスチックトレーの回収量 (店舗のみ)**

**約2,398kg**  
(約47万9,600枚)(前年比 86.94%)

枚数は1枚平均5gとして換算。  
トレー 1tあたりに原油2,400ℓ  
(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。

**マイバッグ持参率**

**474万831人**  
(前年比 94.12%)

マイバッグ持参率87.98%。  
レジ袋1枚に原油10mℓ  
(原料+製造エネルギー用)が使用されています。

**ペットボトルキャップの回収量**

**約2,700kg**  
(約108万个)(前年比 93.1%)

回収したペットボトルキャップは、回収業者を通じてPET原料としてリサイクルされます。

**集品袋・カタログセット袋回収量**

**約5,400kg**  
(約179万8,200枚)(前年比 116.22%)

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。  
リサイクルポリ袋として再生されています。

**廃油回収量 (店舗のみ)**

**約5万3,129ℓ**  
(前年比 96.51%)

ドラム缶に換算すると、約266本分に相当。バイオディーゼル燃料として生まれ変わっています。  
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行なっています。



※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置ができません。また、廃油はコープ大分駅店、コープ別府店、コープ本町店では回収を行っていません。ご了承ください。

	回収量	単位	係数	単位	t-CO2
牛乳パック・カタログ	855,200	kg	0.036500	co2/t	31.21
レジ袋	6,421,600	枚	0.001167	kg/枚	7.49
タマゴパック	4,900	kg	2.632800	co2/t	12.90
プラスチックトレー	2,398	kg	2.632800	co2/t	6.31
製品袋・カタログセット	5,400	kg	2.632800	co2/t	14.22
廃油回収	53,129	L	2.952800	co2/t	156.88
ペットボトルキャップ	1,400	kg	2.632800	co2/t	3.69

# 組合員の環境活動トピックス

## コープおおいた全体で取り組んだ環境活動(一部抜粋)

「電力自由化セミナー」と「家庭の省エネ節電セミナー」を開催しました。

5月11日～6月20日の間に、県内8会場で「電力自由化セミナー」と「家庭の省エネ節電セミナー」を開催し、総勢151名の組合員が参加しました。



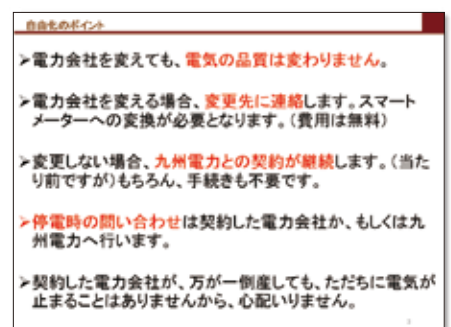
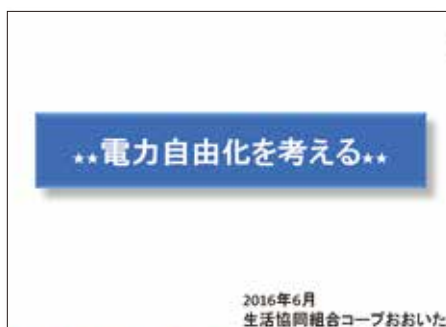
### 【電力自由化セミナー】

2016年4月から、家庭の電力も自由化が始まり、九州電力以外の小売会社から電力を購入できるようになりました。

しかし不安や疑問も多く、わかりやすくセミナーを開催したところ、大変好評頂きました。



- ▶ 電力の自由化とは？ 一体どんなものなのでしょうか？
- ▶ どのくらい安くなるのでしょうか？
- ▶ 小さな電力会社の電気は太陽光発電中心だから、夜は停電しやすいのでしょうか？
- ▶ 新電力への切替の際の注意点は？





# 組合員の環境活動トピックス

## 親子体験スクール in 清川体験農場

清川町での体験農場には1年を通じて、春の部(4月9日～7月16日 参加人数94名)、秋の部(9月11日～11月19日 参加人数81名)で、総勢175名の組合員が参加しました。

清川ふるさと物産館の休耕地をお借りして、農業法人(株)夢ファームおおいたと協同して組合員が家族で農業体験を行なう体験農場の取り組みを継続しています。農場には店舗から排出される残さ(野菜のくず、魚のアラなど)を再生して堆肥にしたエコ堆肥を使用しており、循環型農業の実践にもつなげています。



## 水生生物観察会

7月29日～8月27日の間に県内5カ所で、水生生物観察会を開催し、総勢250名の組合員が参加しました。自然豊かな大分県のあちこちの河川や干潟、海や池などの水辺には多くの生き物が生息しています。また、親子水生生物観察会と題した企画を各エリア委員会やコープ委員会が中心になって開催しています。





# 地球温暖化防止の取り組みと結果

## 地球温暖化防止自主行動計画について

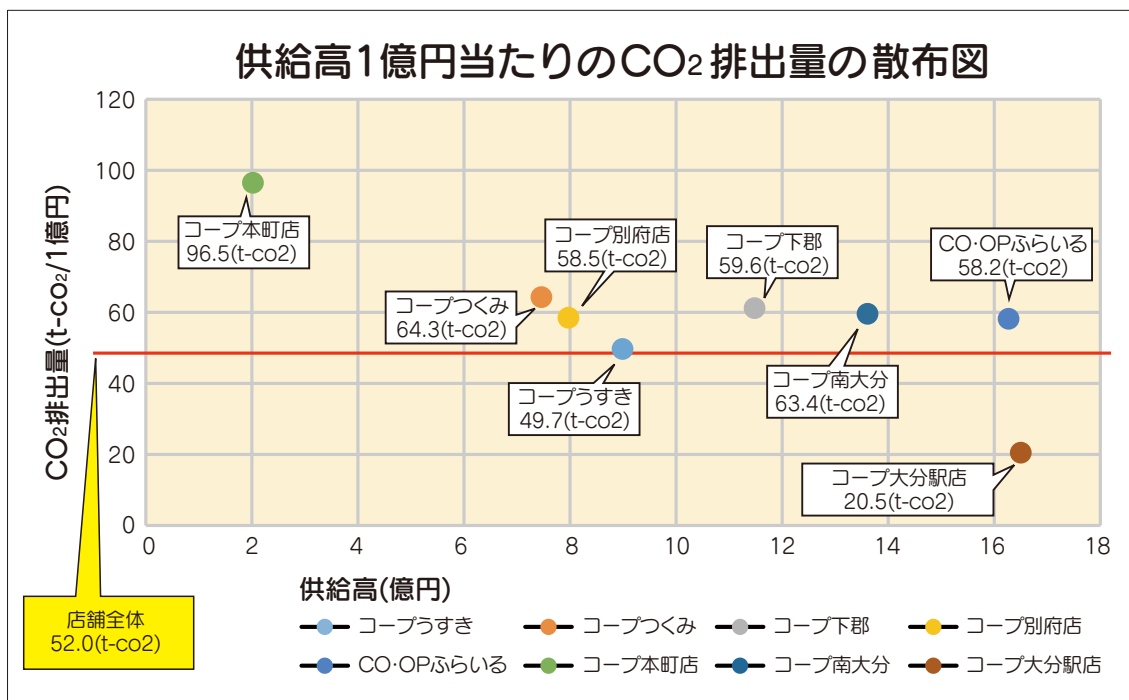
環境方針「各事業所におけるエネルギー（電力・ガス・車両燃料など）使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量を定期的に実測把握・検証し、抑制します」を重点におき、事業と環境の連動に取り組みました。

供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量に着目し、毎月開催の環境推進委員会で進捗状況の確認を行ない抑制を実現できました。

### ◇2016年度の取り組み

2016年度	使用量	単位	CO <sub>2</sub> (t-co <sub>2</sub> )	供給高	供給高当りCO <sub>2</sub>
電力(九州電力)	9,220,909	kWh	4,869	181,82 (億円)	30.00 (t-co <sub>2</sub> )
電力(PPS)	373,975	kWh	120		
ガソリン	90,455	ℓ	210		
軽油	74,908	ℓ	193		
灯油	9,017	ℓ	22		
ガス	13,573	m <sup>3</sup>	41		
合計			5,455		
太陽光	56,151	kWh	301		27.07
リサイクル	10ページ参照		233		
削減効果			533		
実質排出			4,922		

※指標として推進した「供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量」を大きく削減することができました。



# 店舗事業の電気使用量の取り組み(一部抜粋) (既存店舗とセンター)

## ① 空調・冷設室外機高圧洗浄

空調や冷凍・冷蔵ショーケースの室外機には、ごみ・ほこり・カルキ等が付着することにより、吸気効率が悪化し電力負荷が大きくなってしまいます。年2回のペースで吸気効率の改善を目的に室外機の高圧洗浄を実施し、省エネを実現しました。



## ② 空調・冷設室外機への散水噴霧対策

冷蔵庫や空調機の室外機の吸気温度が上昇して効率が低下しております。

室外機熱交換部へ吸気温度の低減を目的とした噴霧装置や散水装置を設置し、大きな省エネ効果を得ました。



## ③ 冷蔵冷凍室外機 ショートサーキット防止対策

冷蔵庫や空調機の室外機の排気(温風)を吸気部分から極力吸い込ませないようにすることで、効率を上げていこうという対策です。

温風排気遮断(防止)板を設置し、暖気の吸込み防止と遮光という省エネ効果を得ました。



## ④ 店舗職員 省エネ学習会の実施

全店舗で職員対象の省エネ学習会を実施しました。省エネにおいて最も重要な「ヒトによる運用改善」を認識してもらい、多くの「気づき」を得ました。

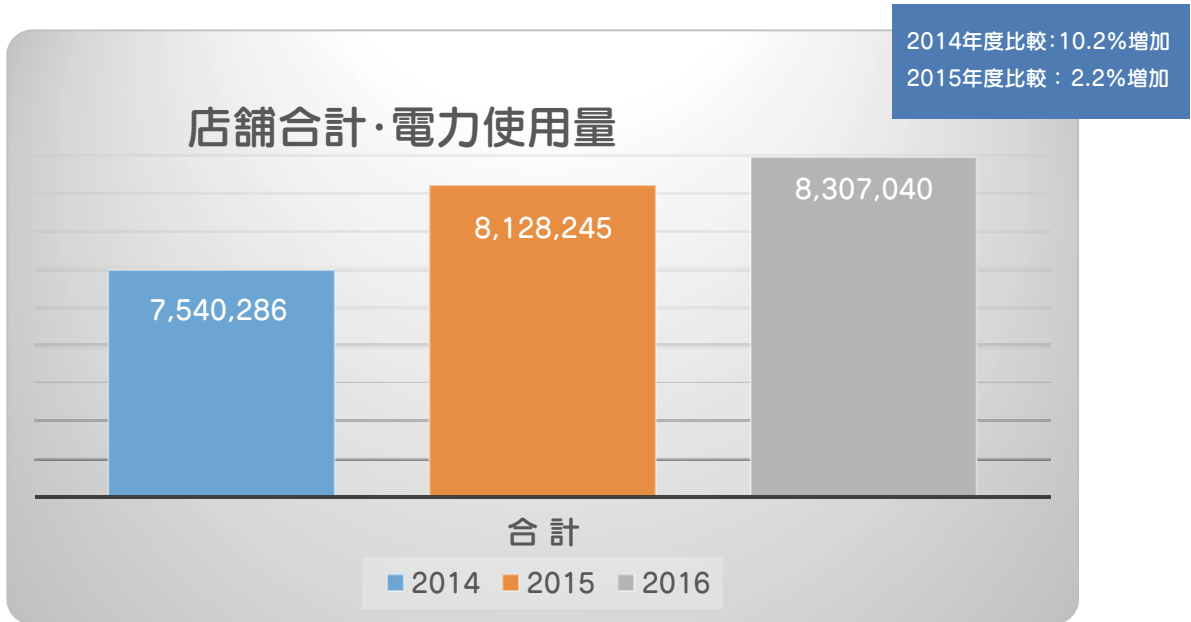


# 店舗事業の電力使用量削減結果

## 店舗別・電気使用量の推移

### 店舗の合計電力使用量の3年間比較

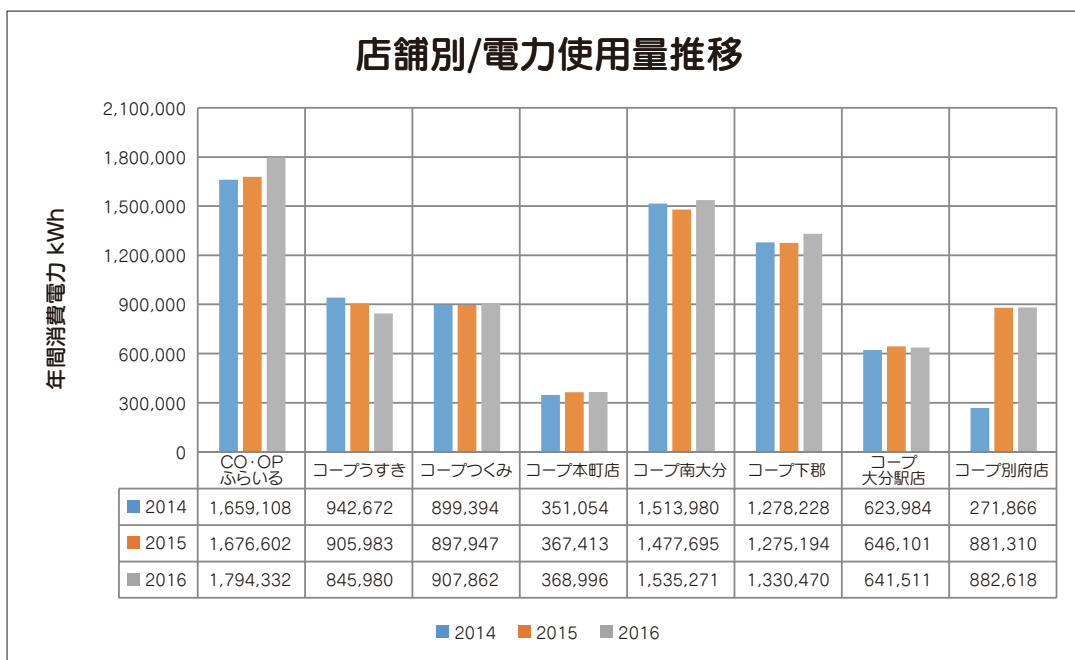
2016年度夏の猛暑による影響は否めません。また、店舗の新設や組合員の皆さまの来店数アップも使用量増加の要因のひとつです。2017年度、更なる省エネに努めていきます。



### 店舗の合計電力使用量推移の3年間比較

2015年度対比で、使用量が減少しているのは、「コープうすき」「コープ大分駅店」の2店舗です（コープつくみ、コープ本町店、コープ別府店は、ほぼ増減なし）。

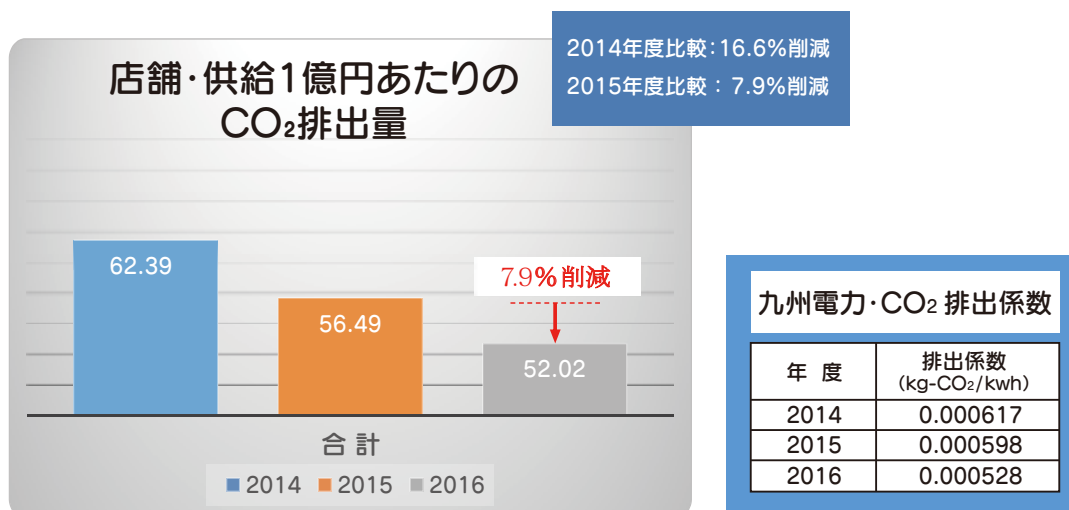
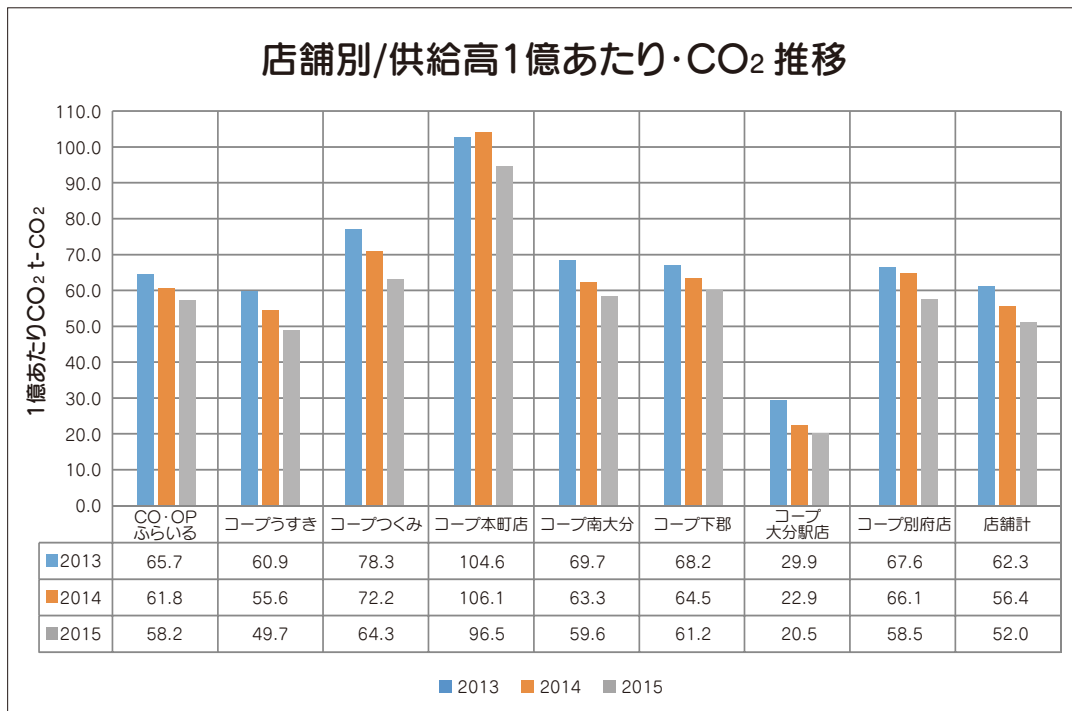
コープうすきは下期に実施した「店舗リニューアルに伴う省エネ機器導入」が大きく貢献しています。



# 店舗事業の電気使用量削減結果

## 店舗別の供給高当たりのCO<sub>2</sub>排出量の推移

コープおおいたの、地球温暖化対策指標として「供給高1億円当たりのCO<sub>2</sub>排出量」の低減を自主活動計画にうたっています。



地域電力の環境負荷軽減効果による部分は大きいですが、各店舗の地道な環境配慮行動と、供給の順調な推移の好循環の賜物です。



# 燃料使用量削減の取り組みと結果報告

宅配事業の配送分野を子会社(コープサービスおおいた)への移行が進みました。その関係で、「燃料使用量、車両台数」とも減ってきています(特に軽油の使用量)。

削減取り組みは「車両1台あたりの燃料使用量」を指標に推進してまいりました。

取り組みの柱である「安全エコドライブ」を業務で運転する職員に徹底すべく、その学習と実践を強めてきました。

結果、**車両1台あたりの燃料使用量を10.3%削減**(2015年度対比)できました。

	2014年度		2015年度		2016年度	
	実績	使用量/台	実績	使用量/台	実績	使用量/台
ガソリン(ℓ)	106,501	1,145	88,031	964	90,455	1,087
車両台数(台)	93	—	91	—	83	—
対前年対比	92.3%	94.3%	82.7%	84.2%	102.8%	112.7%
軽油(ℓ)	273,432	2,420	201,597	2,320	74,908	2,483
車両台数	113	—	87	—	30	—
対前年対比	102%	93%	74%	96%	37%	107%
合計	379,933	1,844	289,628	1,625	165,363	1,458
車両台数	206	—	178	—	113	—
対前年対比	—	—	76.2%	88.1%	57.1%	89.7%

事故を起こさないことを再徹底するために、「安全学習会」や「各事業所での日常チェック」など行なっています。

あわせて「エコドライブ(特にふんわりスタートと急加速しない運転)」をより徹底していくことで、CO<sub>2</sub>排出量削減と無事故運転に努めていきます。



# 太陽光発電レポート

2016年度は「猛暑の夏と長い夏」で省エネには苦勞しましたが、太陽光発電には最適でした。日射量が増えたこと、適切なパネルメンテナンスが功を奏して、発電量が増加しました。

2016年4月から、一般家庭にも電力小売り自由化が始まりました。

生協として、再生可能エネルギーによる発電という事業を通して、温暖化防止の一助となることを目指し、また、電力の供給可能性等も模索していきたいと考えています。

## ◇年間発電実績

単位: kWh

	2014年度	2015年度	2016年度
コープ南大分	204,030	201,641	204,696
コープ下郡	190,017	188,477	191,137
三重センター	52,450	52,559	56,477
宇佐センター	53,985	54,480	58,791
日出センター	49,643	52,773	58,035
コープ別府店	12,157	51,390	58,029
コープうすき	7,627	51,753	54,014
合計	569,909	653,073	681,179



日出センター



宇佐センター



コープ別府店



コープうすき





## 環境活動報告書

---

発行:2017年6月

お問合せ:総務部(☎097-524-0111)

ホームページアドレス <http://www.oita.coop>